

令和元年度実施

(2019 年度実施)

卒業生・雇用主アンケート
調査報告書

令和 3 年（2021 年）3 月

別府大学短期大学部 FD 委員会

はじめに

これまで、卒業生・雇用主アンケート調査は、3 年毎に調査を実施してきましたが、平成 29 年度からは毎年調査を行うことにし、次年度の教育内容の改善に役立てております。

卒業生アンケートは、FD 委員会が担当し、卒業生が在学中に受けた教育の満足度についてアンケート方式で調査をし、その結果を今後の教育の方針や在り方の改善に役立てることを目的としています。

また、雇用主アンケートは、就職委員会が担当し、卒業生の就労状況等について就職先の企業や施設等にアンケート調査を行い、その結果を今後の教育内容の改善に役立てることを目的としています。

私たちは、本調査の結果から、ディプロマ・ポリシーの達成度を評価し、具体的な課題を見出していきたいと考えています。

そこで、アンケートの設問内容は、ディプロマ・ポリシーに基づいて、①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について問うものとししました。

これらの評価結果を分析し、『別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー』に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価（短大企画運営会議）」も掲載することとししました。

これらの取り組みを通して、さらなる教育の内部質保証システムの確立につなげていきたいと考えています。

令和 3 年(2021 年) 3 月
別府大学短期大学部 FD 委員会

はじめに

目次

令和元年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
卒業生アンケート調査結果.....	3
(1) 食物栄養科調査結果	3
(2) 初等教育科調査結果	12
雇用主アンケート調査結果.....	21
(1) 食物栄養科調査結果	21
(2) 初等教育科調査結果	25
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領.....	29
食物栄養科「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	32
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	32
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	33
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	35
初等教育科「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	38
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	38
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	39
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	41

令和元年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領

別府大学短期大学部
FD 委員会
就職委員会

1. 目的

学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

2. 調査対象

- (1) 卒業生アンケート 平成 31 年 3 月卒業生から抽出
(食物栄養科約 20 名、初等教育科約 40 名)
- (2) 雇用主アンケート 平成 31 年 3 月卒業生の就職先から抽出
(食物栄養科 15 施設、初等教育科 30 施設)

3. 実施時期

令和 2 年 2 月 10 日～平成 2 年 2 月 22 日

4. 実施方法

- (1) 担当部署（卒業生：FD 委員会、雇用主：就職委員会）で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、担当部署でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成し、関連部署等の意見を聴取して決定する。
- (3) アンケート実施期間は、上記の期間（10 日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は次の通りとする。
 - *卒業生アンケートはインターネットのみの方法にて行う。
 - *雇用主アンケートはインターネット及びファックスのいずれか対象者が回答しやすい方法にて行う。

5. 調査項目及びアンケート調査用紙

アンケートの調査項目は、各科のディプロマ・ポリシーに基づいて、(1) 教養、(2) 専門力、(3) 汎用力について問うものとする。

※別紙参照

6. 集計

- (1) 卒業生アンケートの集計・分析は、FD 委員会が担当する。
- (2) 雇用主アンケートの集計・分析は、就職委員会が担当する。

7. 調査結果の活用

- (1) FD 委員会及び就職委員会は、卒業生・雇用主アンケート調査の集計・分析結果を取りまとめ、短大企画運営会議に報告する。
- (2) 短大企画運営会議は、卒業生・雇用主アンケート調査の集計・分析結果の報告を受け、「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく DP 達成度評価及び考察と改善策の作成を各科に依頼する。
- (3) DP 達成度評価及び考察と改善策の集約は、学長補佐（教務担当）が担当する。集約結果は、学長の確認を経て短大企画運営会議で報告する。
- (4) 教授会において、(3) の内容を全教員で共有し、次年度の教育活動の改善に活用する。

8. 調査結果の公表

教授会の議を経て、大学ホームページに掲載公表する。

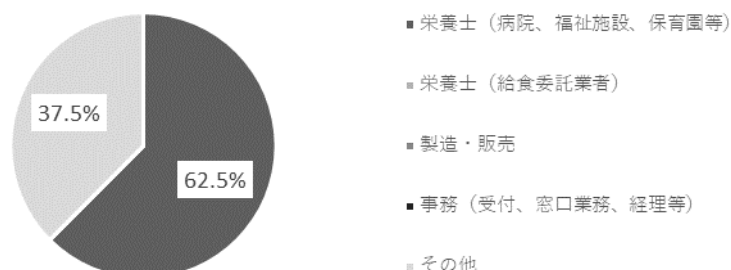
1. 卒業生アンケート

アンケート送付人数	20
回答人数	8
回答率	40.0%

問1 現在の職業（職種）をお答えください。

栄養士（病院、福祉施設、保育園等）	5	62.5%
栄養士（給食委託業者）	0	0.0%
製造・販売	0	0.0%
事務（受付、窓口業務、経理等）	0	0.0%
その他	3	37.5%

（調理員1：美容関係1：アパレル1）

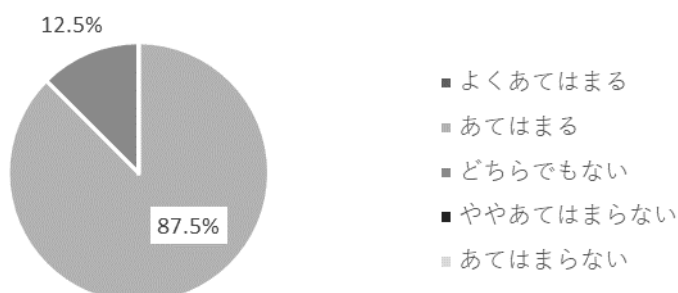


対象人数20人に対して回答者数は8名であり、おおむね40%の回収率であった。

問1の回答結果より、食物栄養科におけるアンケート回答者の現在の職業（職種）の一覧と回答者数、全体における割合を表にまとめた。栄養士（病院、福祉施設、保育園等）と回答したものが62.5%であり、その他と回答したものが37.5%であった。その他の内訳としては調理員1名、美容関係1名、アパレル1名であった。卒業後、多くの学生が栄養士として勤務する実態が反映されていた。

問2. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	7	87.5%
どちらでもない	1	12.5%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%

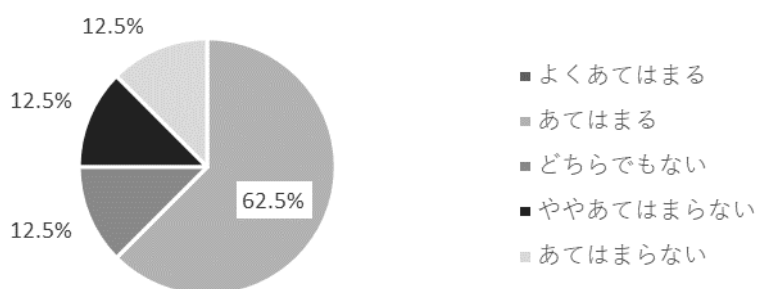


令和元年度 別府大学短期大学部卒業生アンケート 【食物栄養科】

問2では、大学で学んだ「短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養」が卒業後に役立っていると感じているかについて「2: あてはまる」と回答したものが87.5%、「3: どちらでもない」と回答したものが12.5%であった。この結果から、大学における基礎教育については多くの学生が満足していると考えられる。

問3. 人間の探求や自然の摂理（心理学、生物学、化学）、社会の文化（法学、地域社会論）などの基礎的教養は役立っているか。

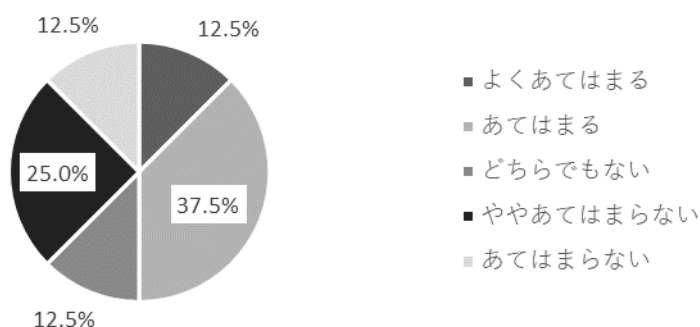
よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	5	62.5%
どちらでもない	1	12.5%
ややあてはまらない	1	12.5%
あてはまらない	1	12.5%



問3では、大学で学んだ「人間の探求や自然の摂理（心理学、生物学、化学）、社会の文化（法学、地域社会論）などの基礎的教養」が卒業後に役立っていると感じているかについて「2: あてはまる」が62.5%、「3: どちらでもない」が12.5%、「4: ややあてはまらない」が12.5%、「5: あてはまらない」が12.5%であった。多くの学生が役立っているとは回答していたが、美容系やアパレル系に就職したものにとっては生物学や化学、法学などで学んだ知識は役立つ実感が少ないのではと考えられる。

問4. 情報処理や外国語（情報機器論、英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

よくあてはまる	1	12.5%
あてはまる	3	37.5%
どちらでもない	1	12.5%
ややあてはまらない	2	25.0%
あてはまらない	1	12.5%

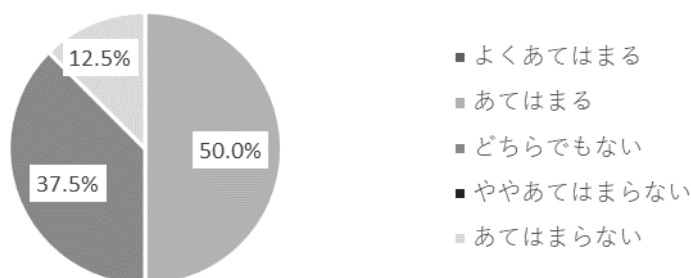


令和元年度 別府大学短期大学部卒業生アンケート 【食物栄養科】

問4では、大学で学んだ「情報処理や外国語（情報機器論、英語）などの基本的なリテラシー」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1：よくあてはまる」が12.5%、「2：あてはまる」が37.5%、「3：どちらでもない」が12.5%、「4：ややあてはまらない」が25.0%、「5：あてはまらない」が12.5%であった。「よくあてはまる」「あてはまる」と回答したものは全体の50%であり半数は役立っていると感じているが、「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答したのも37.5%であることから、パソコンや英語などの科目については就職後の業務に直接役立つという実感が得にくい科目であることが考えられる。

問5. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	3	37.5%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	1	12.5%



問5では、大学で学んだ「運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）」が卒業後に役立っていると感じているかについて「2：あてはまる」が50.0%、「3：どちらでもない」が37.5%、「5：あてはまらない」が12.5%であった。「あてはまる」と回答したものは全体の50%であり半数は役立っていると感じているが、「どちらでもない」「あてはまらない」と回答したのも50%であることから、保健体育などについても就職後に直接的に役立つという実感が得にくい科目であることが考えられる。

どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

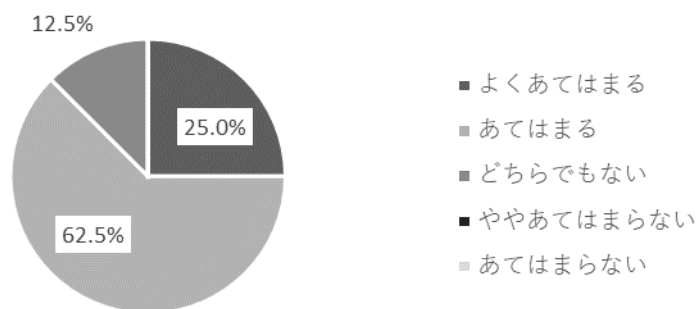
- 実技・実践
- 栄養に関する基礎知識、食育、食育媒体、パソコン

社会に出た後に必要と感じる教養力として記述されていたものは「実技・実践」、「栄養に関する基礎知識、食育、食育媒体、パソコン」であった。教養力についての質問であったが、どちらかといえば専門力的な回答が多いことは、栄養士という専門職に就く学生が多いためであると考えられる。

問6. 社会生活と健康について基礎的な知識は役立っているか。

よくあてはまる	2	25.0%
あてはまる	5	62.5%
どちらでもない	1	12.5%

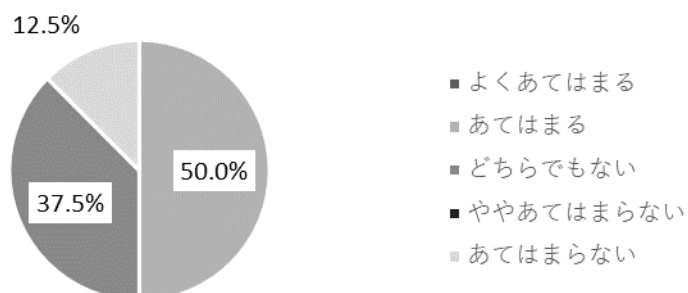
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問6では、「社会生活と健康について基礎的な知識」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1：よくあてはまる」が25.0%、「2：あてはまる」が62.5%、「3：どちらでもない」が12.5%であった。健康に関する知識は栄養士として就職したものにとっては働く上で必要となるが、仕事ではなく家庭生活においても有用な知識であるため、この項目については大多数が役立つと回答したと考えられる。

問7. 人体の構造と機能について基礎的な知識と、それに関する実験の技能は役立っているか。

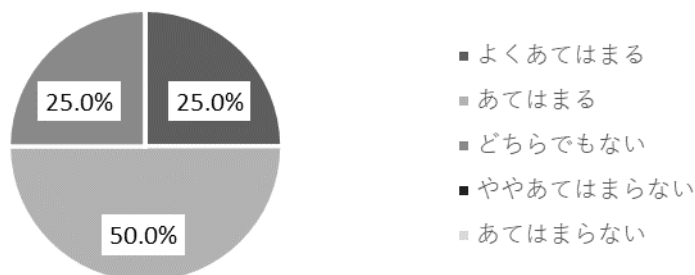
よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	3	37.5%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	1	12.5%



問7では、「人体の構造と機能について基礎的な知識と、それに関する実験の技能」が卒業後に役立っていると感じているかについて「2：あてはまる」が50.0%、「3：どちらでもない」が37.5%、「5：あてはまらない」が12.5%であった。一般職に就職したものにとっては、活かす機会の少ない分野であるため、妥当な数値であると考えられる。

問 8. 食品と衛生について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っている

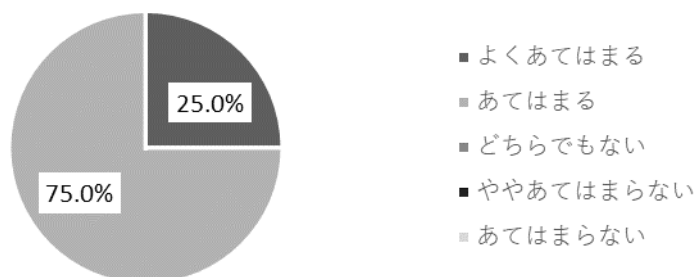
よくあてはまる	2	25.0%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	2	25.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 8 では、「食品と衛生について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1：よくあてはまる」が 25.0%、「2：あてはまる」が 50.0%、「3：どちらでもない」が 25.0%であった。食品や調理に関する知識も栄養士として就職したものにとっては働く上で必要となるが、仕事ではなく家庭生活においても有用な知識であるため、この項目については大多数が役立つと回答したと考えられる。

問 9. 栄養と健康について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

よくあてはまる	2	25.0%
あてはまる	6	75.0%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%

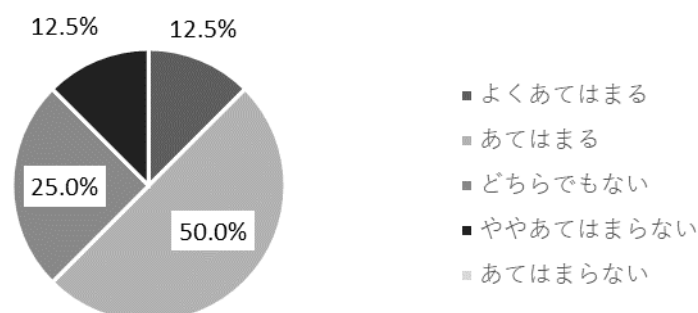


問 9 では、「栄養と健康について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1：よくあてはまる」が 25.0%、「2：あてはまる」が 75.0%であった。栄養や健康に関する知識も栄養士として就職したものにとっては働く上で必要となるが、仕事では

なく家庭生活においても有用な知識であるため、この項目については大多数が役立つと回答したと考えられる。

問 10. 栄養の指導について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

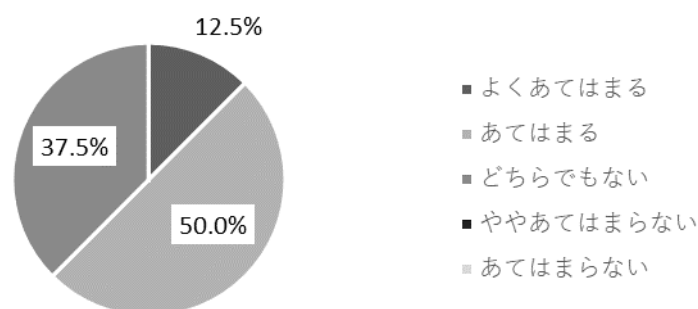
よくあてはまる	1	12.5%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	2	25.0%
ややあてはまらない	1	12.5%
あてはまらない	0	0.0%



問 10 では、「栄養の指導について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1：よくあてはまる」が 12.5%、「2：あてはまる」が 50.0%であり、62.5%の卒業生が役立っていると回答していた。一方で「3：どちらでもない」が 25.5%、「4：ややあてはまらない」が 12.5%であり、一般職として就職したものにとっては役立つ実感の薄い分野であると考えられる。

問 11. 給食の運営について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

よくあてはまる	1	12.5%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	3	37.5%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 11 では、「給食の運営について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1：よくあてはまる」が 12.5%、「2：あてはまる」が 50.0%であり、62.5%の卒業生が役立っていると回答していた。一方で「3：どちらでもない」が 37.5%であり、この分野に関しても、一般職として就職したものにとっては役立つ実感の薄い分野であると考えられる。

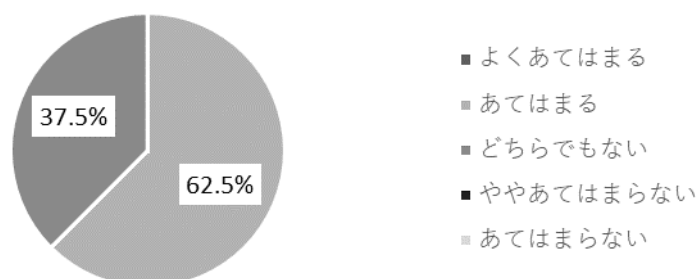
実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- 調理実習 野菜の下処理や調理技術を教えてもらっていたので役立つ
- 調理実習 実技が求められ、必要になる為。
- 給食関係、調理実習 給食の現場において絶対に必要になるため。 情報機器論 給食だよりや給食日誌などを含め活用するため。

実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業については、「調理実習」「給食系の実習」「情報機器を扱う科目」などがあげられていた。調理技術や日誌などを作成するためのパソコン技術などが、栄養士として就職した学生が1年目に必要とする能力であるためだと考えられる。

問 12. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

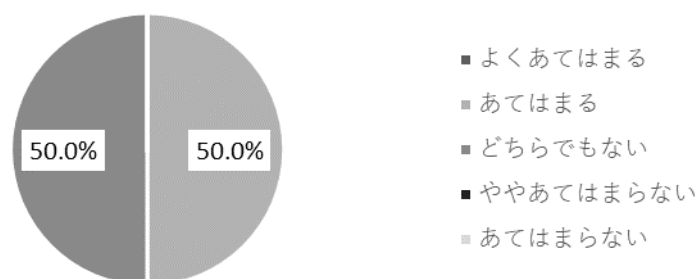
よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	5	62.5%
どちらでもない	3	37.5%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 12 では、大学で身につけた「思考力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「2：あてはまる」が 62.5%であり、多くの卒業生が役立っていると回答していた。一方で「3：どちらでもない」が 37.5%であり、就職して1年未満のものにとっては、自ら課題を見つけて改善する能力を発揮できる場がまだ少ないのではと考えられる。

問 13. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

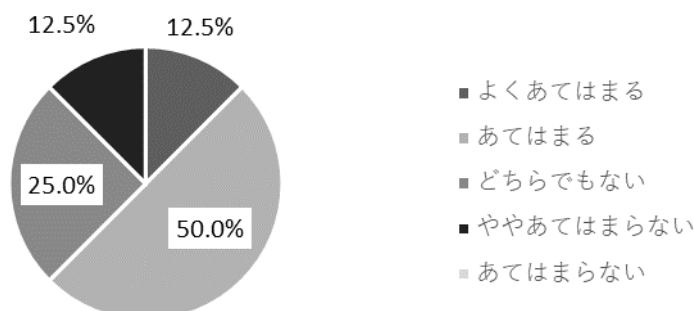
よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	4	50.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 13 では、大学で身につけた「実行力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「2 : あてはまる」が 50.0%であり、「3 : どちらでもない」が 50.0%であった。半数は大学において他者と協調しながら目標を達成する力を身につけ、それを実際の職場で役立てているが、残りの半分はその実感がないうであった。

問 14. 【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

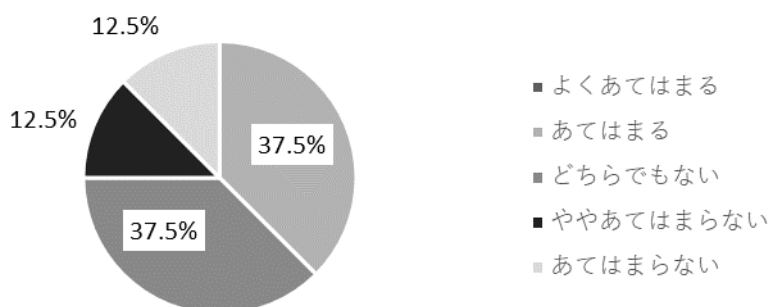
よくあてはまる	1	12.5%
あてはまる	4	50.0%
どちらでもない	2	25.0%
ややあてはまらない	1	12.5%
あてはまらない	0	0.0%



問 14 では、大学で身につけた「表現力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1 : よくあてはまる」が 12.5%、「2 : あてはまる」が 50.0%であり、「3 : どちらでもない」が 25.0%、「4 : ややあてはまらない」が 12.5%であった。半数以上が自分の考えを的確に他者に表現する力を身につけ、職場において発揮できているようであった。

問 15. 【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書や I C T 機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

よくあてはまる	0	0.0%
あてはまる	3	37.5%
どちらでもない	3	37.5%
ややあてはまらない	1	12.5%
あてはまらない	1	12.5%



問 15 では、大学で身につけた「情報力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「2 : あてはまる」が 37.5%であり、「3 : どちらでもない」が 37.5%、「4 : ややあてはまらない」が 12.5%、「5 : あてはまらない」が 12.5%であった。半数以上が「どちらでもない」もしくは「あてはまらない」と回答しており、国際的な動向や課題に幅広い関心を持ち、図書や ICT 機器を用いて必要な情報を収取する力については、発揮できていると考えるものは少なかった。

実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

●アレルギー食について。子供が喜ぶ行事食など。 ●基礎知識、ある程度の調理技術、コミュニケーション力が大切だと思いました。あとは、旅行やアルバイト、ボランティア活動、研究会などの経験は大学生活中にできて良かったです。
●日々の講義に真面目に取り組む姿勢がそのまま仕事にも現れると思うので、取り組む姿勢が身につけていると良いと思います。

「実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと」の自由記述では、「アレルギー食について」「子どもが喜ぶ行事食について」「基礎知識」「調理技術」「コミュニケーション力」「日々の講義に真面目に取り組む姿勢」など多様な回答がみられた。

問 16. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

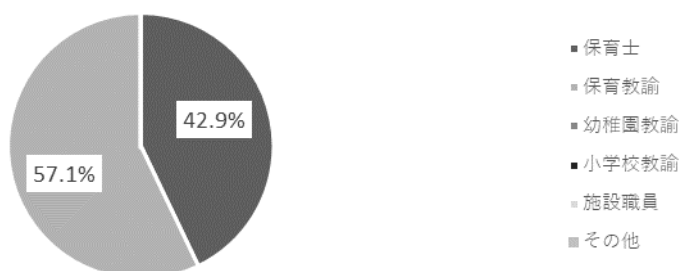
●食物短大での実習は保育園などでよいのでは？短大から栄養士として働く現場は保育園が多いと思うので。

問 16 の、その他のご意見・ご要望についての自由記述では、「保育園などに就職する学生が多いことから、学外実習は病院ではなく保育園などでも良いのでは」という意見があった。

アンケート送付人数	40
回答人数	7
回答率	17.5%

問1 現在の職業（職種）をお答えください。

保育士	3	42.9%
保育教諭	4	57.1%
幼稚園教諭	0	0.0%
小学校教諭	0	0.0%
施設職員	0	0.0%
その他	0	0.0%

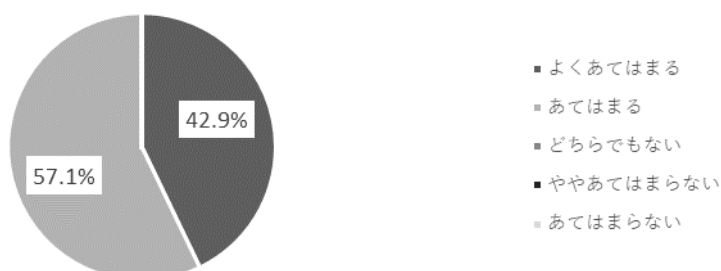


対象人数 40 名に対し 7 名と回答者が少なく、おおむね 18%の回収率である。

問1の回答結果より、初等教育科におけるアンケート回答者の現在の職業（職種）の一覧と回答数、全体における割合を表にまとめた。「保育士」が42.9%、「保育教諭」が57.1%と、卒業後、ほとんどの学生が小学校・幼稚園・保育所・施設に教諭もしくは保育士として勤務する実態が反映されている。

問2. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

よくあてはまる	3	42.9%
あてはまる	4	57.1%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%

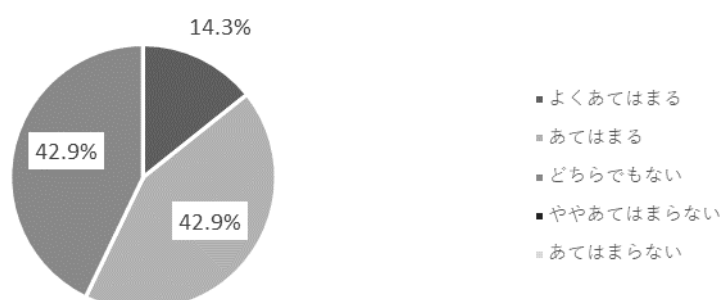


問2では、大学で学んだ「短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養」が卒業後に役立っていると感じているかについて「1:よくあてはまる」「2:あてはまる」「3:どちらでもない」「4:ややあてはまらない」「5:あてはまらない」の5つの選択項目より回答を

求めた。「1：よくあてはまる」が42.9%、「2：あてはまる」が57.1%とこの2項目で100%を占めており、基礎教養教育に対する満足度は高いと思われる。

問3. 人間の探求や自然の摂理（心理学、哲学）、社会の文化（法学、地域社会フィールドワーク演習）などの基礎的教養は役立っているか。

よくあてはまる	1	14.3%
あてはまる	3	42.9%
どちらでもない	3	42.9%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問3では、学内で学んだ「人間の探求や自然の摂理（心理学、哲学）、社会の文化（法学、地域社会フィールドワーク演習）などの基礎的教養」が卒業後に役立っていると感じているかについて、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が14.3%、「2：あてはまる」が46.9%で合わせて61.2%と満足度は高いが、教養教育にかかわる質問の中で比較すると満足度は低い。この分野については普段の保育・教育や生活の中で意識する機会が少ないため、役立っているという実感が薄いと思われる。

問4. 情報処理や外国語（情報処理基礎、英語、韓国語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

よくあてはまる	1	14.3%
あてはまる	4	57.1%
どちらでもない	1	14.3%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	1	14.3%

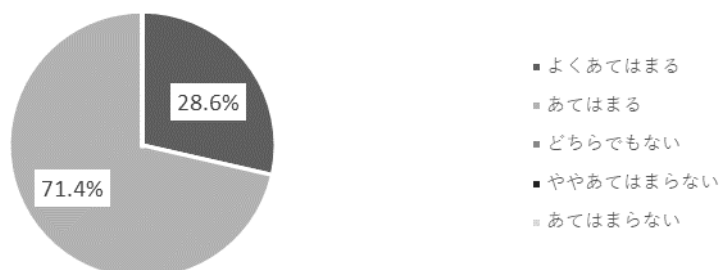


問4では、学内で学んだ「情報処理や外国語（情報処理基礎、英語、韓国語）などの基本的なリテラシー」が卒業後に役立っていると感じているかについて、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が14.3%、「2：あてはまる」が57.1%と合わせて71.3%を占めており、満足度は高い。教養教育、専門教育双方の記述式設問の回答にパソコンとあり、実務で役立つ、必要であるという意識は高い。一方で「3：どちらでもない」が14.3%、「5：あてはまらない」が14.3%と合わせて28.6%の卒業生は役立って

いると思っておらず、個人差または職場環境による必要度の差が生じている可能性が考えられる。

問 5. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

よくあてはまる	2	28.6%
あてはまる	5	71.4%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 5 では、学内で学んだ「運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）」が卒業後に役立っていると感じているかについて、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が 28.6%、「2：あてはまる」が 71.4%とこの 2 項目で 100%を占めており、「3：どちらでもない」以下に回答したものがない。普段から体を使い、子どもと一緒に動くことの多い、初等教育の現場に勤めているため、役立っているという実感が強いのであろう。

どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

●実践教育
●印象をよく見せるメイクの仕方
●病気についての教科
●コミュニケーションスキル、継続力、文章力、パソコン、想像力

社会に出た後に必要と感じる教養力として記述されていたものは「コミュニケーションスキル、継続力、文章力、パソコン、想像力」、「印象をよく見せるメイクの仕方」「病気についての教科」「実践力」であった。専門力・汎用力と重なるものも見られるが、全体としてみると、教育者として人と関わるうえで必要となってくるスキルを重要と認知しており、実践の中で必要な場面に直面し、日々役立っていると実感していることが見て取れる。

問 6. 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能は役立っているか。

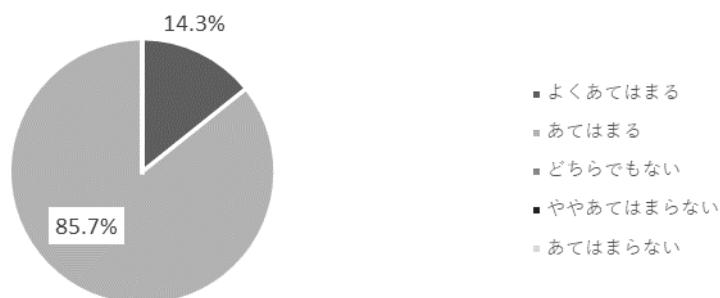
よくあてはまる	4	57.1%
あてはまる	3	42.9%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問6では、「教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能」が役立っていると感じているか、について、問2と同じ選択項目より回答を求めた。「1：よくあてはまる」が57.1%、「2：あてはまる」が42.9%とこの2項目で100%を占めており、専門教育に対する満足度は高い。

問7. 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義は役立っているか。

よくあてはまる	1	14.3%
あてはまる	6	85.7%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問7では、「教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義」が役立っていると感じているかについて、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が14.3%、「2：あてはまる」が85.7%とこの2項目で100%を占めており、満足度は高い。ただし、問6、8、9の結果と比べ、この問いだけは「1：よくあてはまる」の比率が低い。これは日々使用する知識・技能に比べ、理論・意義については日常生活の中で意識する機会が少ないためと考えられる。

問8. 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能は役立っているか。

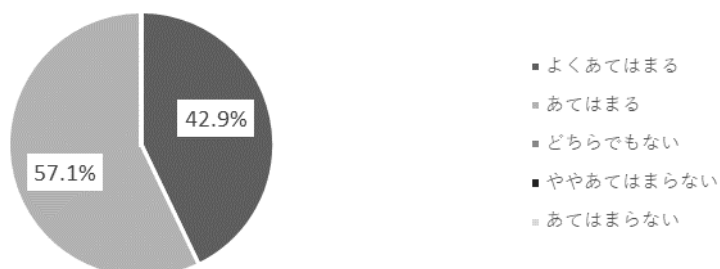
よくあてはまる	4	57.1%
あてはまる	3	42.9%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 8 では、「教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が 57.1%、「2：あてはまる」が 42.9 とこの 2 項目で 100%を占めており、満足度は高い。日々の実践の中で使う必要があることで、強く実感しているのだと考えられる。

問 9. 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

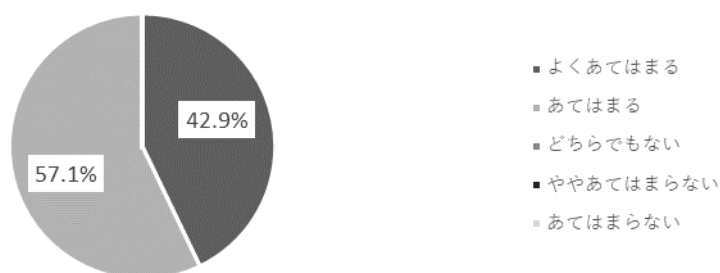
よくあてはまる	3	42.9%
あてはまる	4	57.1%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 9 では「教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が 42.9%、「2：あてはまる」が 57.1%とこの 2 項目で 100%を占めており、学生の満足度は高い。日々の実践の中で使う必要があることで、役立っていると強く実感しているのだと考えられる。

問 10. 教育・保育の実際の場合である園・学校及び施設での実習により、総合的に修得した知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

よくあてはまる	3	42.9%
あてはまる	4	57.1%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 10 では「教育・保育の実際の場合である園・学校及び施設での実習により、総合的に修得した知識・技能と思考力・判断力・表現力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が 42.9%、「2：あてはまる」が 57.1 とこの 2 項目で 100%を占めており、実習に対する満足度は高い。自由記述でも、実習で「授業だけでは学べないこと」が学べ、「たくさんの自分の引き出し」を作れたと、その有意義性を説くものが複数あった。

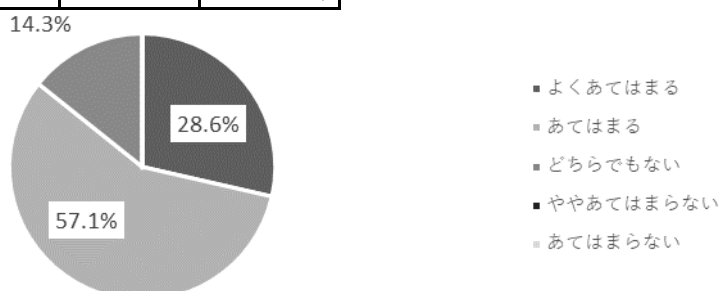
実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- 『実習』 やはり実習で実際に体験して学ぶことで、このときはどのように関わればよいのか、それぞれ園や保育者が大切にしていることなど、授業だけでは学べないことが充実して学べるため。
- 『保育相談支援』など、支援について学ぶ授業
授業を受けていたときは難しく感じていたが、今では関わり方や支援法について保護者と関わる際に立っており、習ってよかったと思う。
- 実習 実際に保育現場で働くことで自分が保育士として働くイメージをすることが出来たし、声かけ、子どもを楽しませる遊びなどたくさんの自分の引き出しを作ることが出来たから
- 子どもの保健
- パソコン、乳児保育の実習、心理学

「実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目」としては、理由も加えて実習と答えたものが複数あり、その重要性は高い。実習以外では、保育相談支援、子どもの保険、乳児保育、心理学、パソコンが挙げられており、子ども理解に基づくや保護者対応、パソコンを使った処理など、職場での実務にあたり必要となる知識・技能に集中している。これらの技能は 1 年目であっても必要とされる能力であるためだと考えられる。

問 11. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

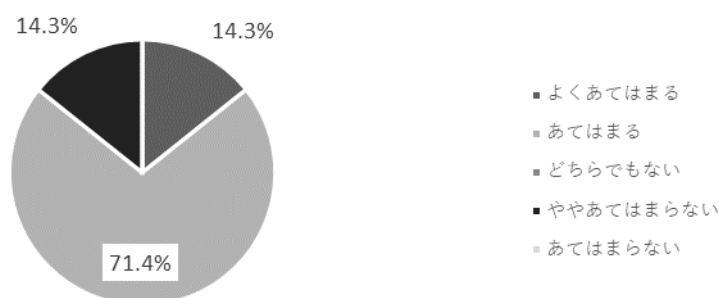
よくあてはまる	2	28.6%
あてはまる	4	57.1%
どちらでもない	1	14.3%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 11 では大学で身につけた「思考力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1 : よくあてはまる」が 28.6%、「2 : あてはまる」が 57.1 とこの 2 項目で 85.7%を占めており、満足度は高い。残りの 14.3%は「3 : どちらでもない」であり、まず成功しているといえよう。

問 12. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

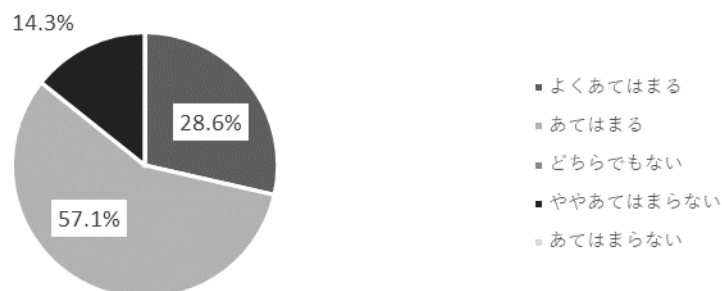
よくあてはまる	1	14.3%
あてはまる	5	71.4%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	1	14.3%
あてはまらない	0	0.0%



問 12 では大学で身につけた「実行力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1 : よくあてはまる」が 14.3%、「2 : あてはまる」が 71.4%とこの 2 項目で 85.7%を占めており、満足度は高い。「4 : ややあてはまらない」が 14.3%あることについては、経験年数が少ないため、リーダーシップをとる機会が少ないことが理由として考えられる。

問 13. 【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

よくあてはまる	2	28.6%
あてはまる	4	57.1%
どちらでもない	0	0.0%
ややあてはまらない	1	14.3%
あてはまらない	0	0.0%

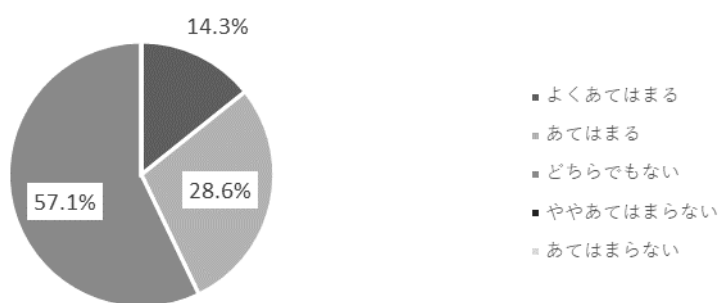


問 13 では大学で身につけた「表現力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1 :

よくあてはまる」が28.6%、「2：あてはまる」が57.1とこの2項目で85.7%を占めており、満足度は高い。子どもはもちろん、同僚や保護者、地域の人々とコミュニケーションをとる必要のある職業であり、表現力が役立っていると感じる機会が多いため、実感も強いと考えられる。

問 14. 【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

よくあてはまる	1	14.3%
あてはまる	2	28.6%
どちらでもない	4	57.1%
ややあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	0	0.0%



問 14 では大学で身につけた「情報力」が役立っていると感じているか、について、回答を求めた。「1：よくあてはまる」が14.3%、「2：あてはまる」が28.6%と、この2項目合わせて42.9%にとどまり、残りの57.1%は「3：どちらでもない」と答えている。汎用力の中では最も結果が低いのは、職場で国際的な動向・問題に接する機会が少ないためではないかと考えられる。

実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- 積極性や実行性はあったほうがいいとおもいます。でも一番は子どものことを大切に思い、愛情を持って関わること！
- 自分の意見を持つこと。自分の考えを言葉、文章にする力。
- 自分の判断で決めないこと、分からないことは恥ずかしいことではないからたくさん聞いて自分の力にしていくこと
- ピアノ、指導案の書き方
- コミュニケーションスキル、言葉使い・マナー、記憶力

「実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと」の自由記述では、「記憶力、積極性、実行力」のような個別の能力や「ピアノ、指導案の書き方」という個別のスキルについての記載もあったが、「子どものことを大切に思い、愛情をもってかかわること」「わからないことを聞いて自分の力にしていくこと」「自分の意見を持つこと」という保育や学びの本質にかかわるアドバイスが多かった。保育士として、社会人としての自覚が強くなっていることがうかがわれる。

問 15. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- 在学中の時、保育歴1年目の先生が話に来てくれたことが、そのときの自分に役立ちました。もっといろんな方の経験した話を聞く機会があるといいなと思います。

問 15 では、「その他のご意見・ご要望」について自由記述をお願いしたが、わずかに1名の記述のみ

であった。要望の内容としては、在学中、保育歴 1 年の先生が話に来て話してくれたことが、そのときの自分に役立った。職場の深い部分が見えてくるので、もっと経験談を聞く機会があってほしい、という趣旨であった。保護者懇談会のアンケートでも、子どもたちに卒業生の話を聞かせてあげたいという声が多数出ているため、今後、検討していくべき問題であると考えられる。

2. 雇用主アンケート

(1)食物栄養科【送付:15 施設(社)、回収:7 施設(社)、回収率 46.7%】

【Ⅰ はじめに貴施設(社)についての基本事項をお答えください。】

問1 ご回答いただく貴施設(社)の所在地及び従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合
大分県大分市	7	100.0%
合計	7	100.0%

2) 従業員数・職員数

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	4	57.1%
50～99	1	14.3%
100～199	1	14.3%
200～	1	14.3%
合計	7	100.0%

3) 業種

業種	回答数	割合
保育園	7	58.3%
認定こども園	3	25.0%
医療	1	25.0%
無回答	1	8.3%
合計	7	100.0%

問2 現在の本学卒業生が就いている職業(業種)をお答えください。[※複数選択可]

職業(業種)	回答数	割合
保育士	4	23.5%
保育教諭	3	17.6%
幼稚園教諭	1	5.9%
栄養士(調理員含む)	7	41.2%
栄養教諭	1	5.9%
事務(受付、窓口業務、経理等)	1	5.9%

※卒業生が複数(食物・初教)いる場合、それぞれを選択

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。

施設(社)NO.	初等教育科 卒	食物栄養科 卒
①	0	3
②	6	7
③	6	1
④	6	1
⑤	5	6
⑥	5	1
⑦	4	2

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	※勤務期間	退職理由
1	女	平成24年・4月	平成31年・3月	7年0ヶ月	結婚のため
2	女	平成27年・4月	平成31年・3月	4年0ヶ月	家業を継ぐため
3	女	平成27年・4月	平成31年・3月	4年0ヶ月	転職のため
4	女	平成27年・4月	平成31年・3月	4年0ヶ月	結婚のため

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・知識（専門、一般常識）、人柄（自律性、協調性）
- ・意欲、明るさ
- ・子どもが好きなところ、表現力豊かなところ
- ・社会性が身についているかどうか。人物重視。
- ・子どもが好きであるということ
- ・コミュニケーション力、積極性

【Ⅱ 2019 年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

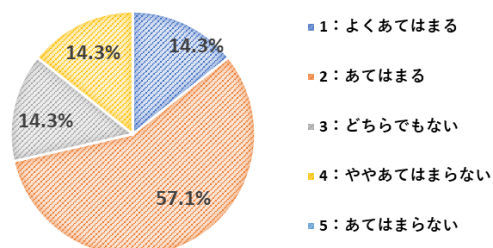
本学卒業生に対する印象について、問 5～問 9 の項目において 5 段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

〔1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない〕

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問 5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

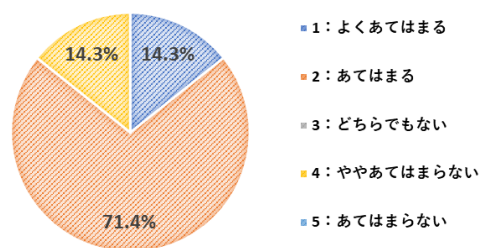
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	14.3%
2：あてはまる	4	57.1%
3：どちらでもない	1	14.3%
4：ややあてはまらない	1	14.3%
5：あてはまらない	0	0.0%



〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

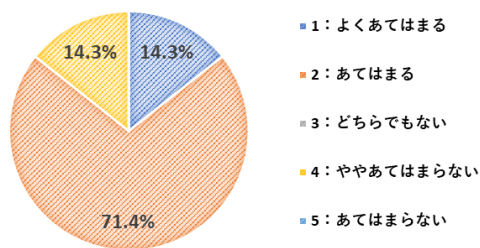
問 6 専門に関する知識・技能を修得している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	14.3%
2：あてはまる	5	71.4%
3：どちらでもない	0	0.0%
4：ややあてはまらない	1	14.3%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。

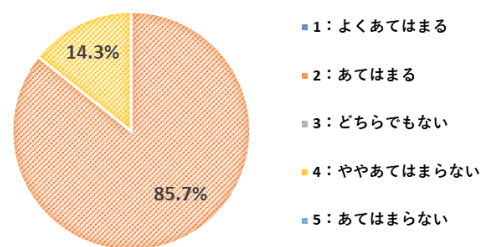
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	14.3%
2：あてはまる	5	71.4%
3：どちらでもない	0	0.0%
4：ややあてはまらない	1	14.3%
5：あてはまらない	0	0.0%



〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

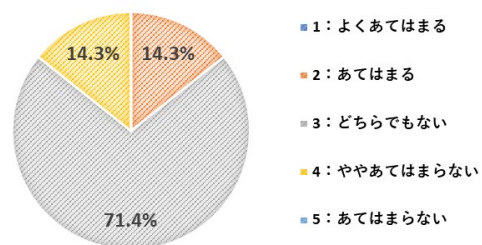
問 8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	6	85.7%
3：どちらでもない	0	0.0%
4：ややあてはまらない	1	14.3%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	1	14.3%
3：どちらでもない	5	71.4%
4：ややあてはまらない	1	14.3%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・長く続けることの大切さを伝えていただけると幸いです。
- ・いつも保育園を気にかけていただきありがとうございます。

(2)初等教育科【送付:30 施設(社)、回収:12 施設(社)、回収率 40.0%】

【Ⅰ はじめに貴施設（社）についての基本事項をお答えください。】

問 1 ご回答いただく貴施設（社）の所在地及び従業員数・職員数（企業の場合は全体の人数）、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合
大分県大分市	7	58.3%
大分県別府市	3	25.0%
大分県国東市	1	8.3%
大分県宇佐市	1	8.3%
合計	12	100.0%

2) 従業員数・職員数

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	8	66.7%
50～99	0	0.0%
100～199	0	0.0%
200～	2	16.7%
無回答	2	16.7%
合計	12	100.0%

3) 業種

業種	回答数	割合
保育所	7	58.3%
幼稚園	1	8.3%
認定こども園	3	25.0%
無回答	1	8.3%
合計	12	100.0%

問 2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業(業種)	回答数	割合
保育士	6	33.3%
保育教諭	4	22.2%
幼稚園教諭	1	5.6%
栄養士(調理員含む)	6	33.3%
栄養教諭	1	5.6%

※卒業生が複数（食物・初教）いる場合、それぞれを選択

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。

施設(社)NO.	初等教育科 卒	食物栄養科 卒	施設(社)NO.	初等教育科 卒	食物栄養科 卒
①	1 2	1	⑦	1	0
②	4	0	⑧	5	1
③	3	1	⑨	7	1
④	1 3	2	⑩	1	2
⑤	4	0	⑪	6	1
⑥	2	0	⑫	1 0	1

(人)

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	※勤務期間	退職理由
1	女	平成 17 年・4 月	平成 30 年・3 月	13 年 0 ヶ月	結婚のため
2	女	平成 19 年・4 月	平成 31 年・3 月	12 年 0 ヶ月	転職(子育てのため)
3	女	平成 21 年・4 月	平成 30 年・3 月	9 年 0 ヶ月	結婚のため
4	女	平成 25 年・4 月	平成 31 年・3 月	6 年 0 ヶ月	結婚のため
5	女	平成 26 年・4 月	平成 29 年・3 月	3 年 0 ヶ月	自己都合
6	女	平成 26 年・4 月	平成 29 年・3 月	3 年 0 ヶ月	自己都合
7	女	平成 29 年・7 月	平成 31 年・4 月	1 年 10 ヶ月	
8	女	平成 30 年・4 月	平成 30 年・7 月	0 年 4 ヶ月	自己都合
9	女	平成 30 年・4 月	平成 31 年・3 月	1 年 0 ヶ月	自己都合
10	女	平成 31 年・4 月	平成 31 年・9 月	0 年 6 ヶ月	妊娠したため

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・笑顔とやる気
- ・熱量が感じられるかどうか。素直さが現れているかどうか。
- ・コミュニケーション力、明るさ
- ・働く中での目標
- ・コミュニケーション能力(協調性)
- ・早く現場で子どもと向き合いたいという意識の高い学生ほど良いと思います。立ち振る舞いや気配り等は自然と身についていきます。
- ・明朗活発であること
- ・柔軟性、発言力のあること
- ・挨拶や礼儀、第一印象の明るさ
- ・やる気、明るさ、笑顔

- ・誠実さとやる気があるかを重視しています。
- ・教養試験の点数だけではなく、コミュニケーション力や責任感などの人物重視の採用を行なっている。
- ・社会性、協調性があり笑顔が素敵な方

【Ⅱ 2019 年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

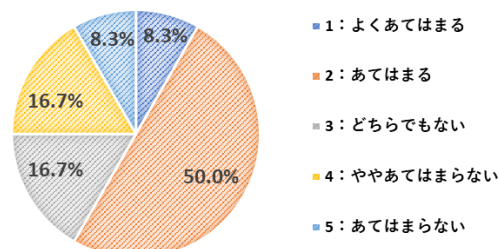
本学卒業生に対する印象について、問 5～問 9 の項目において 5 段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

[1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない]

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問 5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

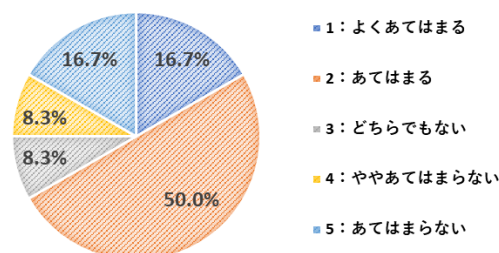
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	8.3%
2：あてはまる	6	50.0%
3：どちらでもない	2	16.7%
4：ややあてはまらない	2	16.7%
5：あてはまらない	1	8.3%



〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

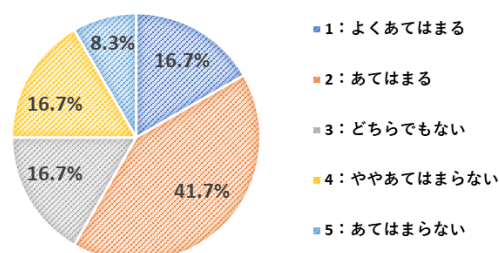
問 6 専門に関する知識・技能を修得している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	16.7%
2：あてはまる	6	50.0%
3：どちらでもない	1	8.3%
4：ややあてはまらない	1	8.3%
5：あてはまらない	2	16.7%



問 7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができる。

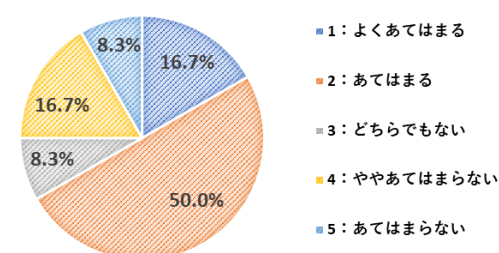
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	16.7%
2：あてはまる	5	41.7%
3：どちらでもない	2	16.7%
4：ややあてはまらない	2	16.7%
5：あてはまらない	1	8.3%



〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

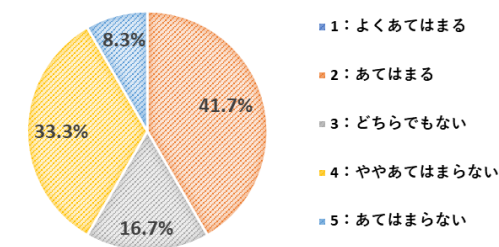
問 8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	16.7%
2：あてはまる	6	50.0%
3：どちらでもない	1	8.3%
4：ややあてはまらない	2	16.7%
5：あてはまらない	1	8.3%



問 9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	5	41.7%
3：どちらでもない	2	16.7%
4：ややあてはまらない	4	33.3%
5：あてはまらない	1	8.3%



問 10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・保育現場では、保育教諭も皆楽しめる雰囲気づくりをしています。
- ・積極的に新卒採用を考えています。学生の動向を知りたいと思います。（学生の活動等 含め）
- ・保育士を目指す中で、人間、社会人としての基本的な生活習慣もしっかりと自覚して子どもたちの前に立ったとき、自分はどう思い接しなければいけないのかを常に考えてほしいです。評価については1年目なので評価しかねます。
- ・無断欠勤が続き全く連絡もとれず困っております。母親も連絡が取れないとのことですが一度お会いして相談する予定です

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日
短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況进行评估する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況进行评估する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識

と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

食物栄養科ディプロマポリシー（令和元年度）

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- （1）短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由（200字程度）
4(4)	卒業生アンケートにおいて、87.5%が「あてはまる」と回答しており、多くの卒業生が肯定的にとらえていた。一方、雇用主アンケートでは「よくあてはまる」、「あてはまる」を合わせて71.4%で、卒業生アンケートに比べればやや数値は下回るものの、概ね満足されている状況がうかがわれる。両アンケートの結果から、基礎的な教養を身につけることや、建学の精神及び教育目的・教育目標等の理解については、達成できたと考えられる。

カッコ内の数字は昨年度の評点

- （2）人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由（200字程度）
3(3)	卒業生アンケートにおいて、「あてはまる」の割合が62.5%でありDP達成度は3とした。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」で80%であったため、昨年度より達成状況は低下した。雇用主アンケートの記述において、新卒者の採用として、知識を重視するところもあり、既存の学修のなかで基礎的教養を身につけさせることが必要である。

- （3）情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由（200字程度）
2(2)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」が12.5%、「あてはまる」が37.5%であり、50%の卒業生が情報処理や外国語などの基本的リテラシーを身につけていると感じているが、「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答したものが37.5%ある。雇用主アンケートでは、社会的な常識・知識など他のリテラシーと併せて調査をしており、直接の比較・分析は難しい。実際に仕事で情報処理や外国語の活用がどの程度あるかが、卒業生の回答に影響している可能性も考えられるが、基本的リテラシーの修得を意識した授業を一層推進する必要がある。

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
2(4)	卒業生アンケートにおいて、「あてはまる」は50%でDP達成度は2とした。昨年度は「よくあてまる」「あてはまる」の合計評価が93%だったので大幅に低下している。栄養士にとって健康や生活活動としての運動を実践する基本的知識と技能を身につけていることは、健康維持や生活習慣病対策の上で重要であるにもかかわらず「あてはまらない」との回答もみられた。今後、保健体育の重要性を既存の科目の中でさらに学修していくことが必要である。

(5) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、自然等についての基本的教養を身につけている。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3(4)	雇用主アンケートにおいて、「よくあてはまる」、「あてはまる」の合計が71.4%となり、概ね基本的教養は身につけ役立っていることがわかった。卒業生の自由記述では、社会に出てからの教養として、「実技・実践」や栄養に関する知識、食育、パソコン等に関する内容があげられており、これらに関する科目のさらなる充実が求められている。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評（200字程度）

回答数が少なく、一般職で就職した者が回答者の半数を占めていたことが影響し、きちんとした評価・考察はできないが、情報処理や外国語、運動と健康維持・増進に関する項目以外は3～4の評価が得られ、教養力は概ね修得できていると思われる。

しかし、情報処理や外国語などの基本的リテラシーについて、卒業生の評価が分かれている状況があり、低い評価になった。実際の仕事内容の影響も考えられるものの、卒業生アンケートの自由記述では、社会に出た後役に立つ教養教育として「パソコン」が挙げられており、情報処理などの基本的リテラシーに関してさらに力をつける必要があると考えられる。在学中の情報処理や外国語の授業に対する満足度は高いようであるが、他の授業も含めて、一層の工夫を進める必要がある。

また、運動と健康維持・増進などの活動について、健康問題に取り組む上での重要な課題なので、栄養士も運動に関する基礎知識をつけることは重要である。このためスポーツと栄養をコラボレートするような学習内容を取り入れるような改善を既存の科目の中で取り入れたい。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞食物と栄養・健康に関する知識や技術の社会的な意義や、食物と栄養・健康に関する知識や技術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

＜職業生活で評価される能力＞食物と栄養・健康に関する専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に栄養管理や給食管理、調理の能力を修得している。

(1) 社会生活と健康について基礎的な知識を修得している。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
4(4)	卒業生アンケートにおいて、25.0%が「よくあてはまる」、62.5%が「あてはまる」と回答し、合計 87.5%の卒業生が社会福祉や健康管理に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。

カッコ内の数字は昨年度の評点

(2) 人体の構造と機能についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能を修得している。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
3(2)	卒業生アンケートにおいて、50.0%が「あてはまる」と回答したのに対し、「どちらでもない」が37.5%、「あてはまらない」の割合が12.5%であった。人体の構造と機能についての学習内容は、栄養士の専門職に就職するか一般職に就職するかで、その必要性が大きく変わってくる。回答者の職種の約6割が栄養士、残りの約4割が一般職であったことが結果に影響していると思われる。栄養士で就職した者は、概ね知識および技術が修得でき役立っていると思われる。

(3) 食品と衛生についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
3(4)	卒業生アンケートにおいて、25.0%が「よくあてはまる」、50.0%が「あてはまる」と回答し、合計 75.0%の卒業生が食品と衛生に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。概ね知識と技術の修得は出来ていると考えられるが、卒業生の25.0%が「どちらでもない」、雇用主の14.3%が「ややあてはまらない」と回答しており、食品と衛生に関する基礎的な知識は栄養士として修得すべき必須項目であるため、より指導を充実させていく必要がある。

(4) 栄養と健康についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
---------	------------

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

4(4)	卒業生アンケートは、25.0%が「よくあてはまる」、75.0%が「あてはまる」と回答し、栄養士、一般職の別を問わず、回答した全員の卒業生が栄養と健康に関する知識や技能・技術を修得し、卒業後に役立っていることがわかった。卒業生の自由記述にあるように、保育園での実習に対する要望、アレルギー食の対応や、子どもの行事食に関することが必要であること、また知識や技術修得の為に自らの取り組み姿勢が大切であると、実務に就いて気づきがあったことが伺えた。
------	--

(5) 栄養の指導についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3(3)	卒業生アンケートにおいて、12.5%が「よくあてはまる」、50.0%が「あてはまる」と回答し、合計 62.5%の卒業生が栄養の指導に関する知識や技術が役立っていることがわかった。一方、25.0%が「どちらでもない」、残りの 12.5%が「ややあてはまらない」と回答しており、37.5%の卒業生はあまり役立っていないことがわかった。栄養の指導についての学習内容は、栄養士の専門職に就職するか一般職に就職するかで、その必要性が大きく変わってくる。栄養士で就職した者は、概ね知識および技術が修得でき役立っているとは回答しているため、修得度は高かったと考えられる。

(6) 給食の運営についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3(3)	卒業生アンケートにおいて、12.5%が「よくあてはまる」、50.0%が「あてはまる」と回答した。また、「どちらでもない」と回答した割合は 37.5%であったが、栄養士で就職した者は「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答しており、給食の運営に関する基礎的な知識および実践的な技術は概ね役立っていると思われる。学校で学んだことがすぐ仕事につながらず、現場を経験しながら習得していくことが多い分野と考えられるが、基礎的事項は学校で理解ができるよう指導していかなければならない。その基礎を基に経験を積んで、仕事力が高まり充実感を持つことができれば、雇用主の自由記述にあるように、「長く続けることの大切さ」につながるのではないかと考えられる。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評（200字程度）

専門力の評価については、卒業後に栄養士で就職したか一般職で就職したかによって結果が大きく変わってくるので分析は困難であるが、雇用主アンケートの結果から、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した合計の割合が 85.7%であり、卒業生の大半が専門に関する知識・技能は修得できていると評価された。各項目について

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

て3～4の評価であり基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられる。

専門力の自由記述で「有意義だったと思う授業」では、調理実習、給食関係の実習等が記述されており、毎日の栄養士業務に直結した授業内容であるため、その必要性を実感し満足度も高かったと考えられる。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

（1）思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価（1～4）	理由（200字程度）
3(3)	「あてはまる」と回答した割合が卒業生は 62.5%、雇用主は 85.7%だった。卒業生、雇用主ともに大学で身につけた「思考力」が社会で役立っていると考えられる。また、卒業生の 37.5%が「どちらでもない」、雇用主の 14.3%が「ややあてはまらない」と回答しており、自ら考える思考力、実践力を学生時代に養い、社会に出たときにすぐに活躍できる人材を育成していくことも必要と考える。

カッコ内の数字は昨年度の評点

（2）実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

評価（1～4）	理由（200字程度）
3(3)	卒業生アンケートについて、「あてはまる」と回答した割合が 50%、「どちらでもない」が 50%であった。また、雇用主アンケートでは、85.7%が「あてはまる」、14.3%が「ややあてはまらない」と回答した。卒業生は若干厳しめの評価であったが、雇用主の評価は高かったため評価を「3」にした。卒業生、雇用主ともに大学で身につけた「実行力」が社会で役立っていると考えられる。 卒業生の半数は学生時代に実行力を身につけているが、残りの半数は力を組織などで発揮できていないようである。実習、研究会などを通して他者と協調しながら目標を達成するための実行力を身につけていく必要があると考える。

（3）表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（1～4）	理由（200字程度）
---------	------------

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

3(4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した合計の割合は 62.5%であり、6 割以上の学生が表現力を身につけていると回答していることから評価を「3」とした。自由記述では社会人として必要だと思うこととして「コミュニケーション力」を挙げている文章も見られるため、授業などを通じて学生の表現力のさらなる向上を促していく必要がある。
------	--

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書や I C T 機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、P C スキルなどを含む。

評価 (1 ~ 4)	理由 (200 字程度)
2(3)	卒業生アンケートにおいて、「あてはまる」と回答した割合は 37.5%、「どちらでもない」と回答した割合も同様に 37.5%であった。雇用主アンケートでは、「あてはまる」と回答した割合が 14.3%、「どちらでもない」と回答した割合が 71.4%であった。今後は PC を用いた授業などを中心に、情報収集や分析などを行う際の I C T 機器のより具体的な活用方法などを学生が修得できるように工夫していく必要がある。

汎用力 (社会で活躍できる汎用性のある能力) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評 (200 字程度)

前回評価より結果が下がった項目もあったが、思考力、実行力、表現力については社会で活躍できる汎用力は概ね修得できていると思われた。

しかし、情報力については、前回評価よりもさらに下がり「2」の評価になった。PC を活用した情報系の授業のみでなく、栄養士の専門科目においても、正しい情報を収集し栄養教育していくために情報収集分析力は重要であることから、図書や文献の検索方法、活用方法を指導していくことが求められる。

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

初等教育科ディプロマポリシー（令和元年度）

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）

- （1）短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由（200字程度）
3 (4)	卒業生アンケートにおいては、1：よくあてはまる、2：あてはまると回答した割合を合計すると 87.5%であった。一方、雇用主アンケートでは1と2の合計は 65%である。全体回答数が少ないものの基礎的な教養については現場で求められるもののほうが高くなっている。しかし概ね 6 割を超えており基礎的な教養を身につけ建学の精神及び教育目的・教育目標を達成できていると考える。

カッコ内の数字は昨年度の評点

- （2）人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由（200字程度）
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた雇用主、卒業生アンケートではそれぞれ約 6 割であり教養教育にかかわる質問の中で比較すると満足度は低い。この分野については普段の保育・教育や生活の中で意識する機会が少ないため、役立っているという実感が若干薄いと思われる。

- （3）情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由（200字程度）
3 (2)	卒業生アンケートの中に役立った授業の中にパソコンという記述が一つあった。また卒業生アンケートでは「よくあてはまる」「あてはまる」が 71.3%と身につけていることがわかる。雇用主アンケートでも「よくあてはまる・あてはまる」が 60%と安定し役立つという認識も感じやすく、職場での必要性も高まっていると思われる。

- （4）運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価（1～4）	理由（200字程度）
---------	------------

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

4 (3)	運動と健康維持・増進活動の実践技能については、卒業生アンケートで「よくあてはまる・あてはまる」の回答が 100%と高い割合であるといえる。また、「身についていない」という回答は、0%であったことから、評価を「3」と判断した。職業として自身の健康管理が大切であることは言うまでもなく、そのための基本的な技能がおおむね備わっているといえるだろう。
-------	---

(5) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、自然等についての基本的教養を身につけている。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3 (3)	卒業生アンケートでは、約 60%が身に付けているという結果が見られた。満足度は高いが他の教養教育に比べると満足度は低いと言える。日頃の生活で意識する機会や役立っているという実感は薄いと思われる。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評（200字程度）

今回のアンケートでは回答数が少なく個人差も見られる。しかし取り組みとして進路指導の中では各種講座を開講し、幅広い知識の習得にも務め、積極的にキャリア教育を行っている。また情報に関するリテラシーの修得は学びの定着が見られ改善されている。雇用主アンケートでは、基礎学力などは身につけられていると評価される一方、社会人としての基本的な生活習慣を求められる意見もあり教養において教育・保育現場ではさらに幅広く高いレベルが求められている。

短大での教養科目の学修を通じて必要とされる基礎的な知識や教養については、概ね習得できていると言える。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）

＜社会的意義＞

教育学のもつ社会的な意義や、教育学を学ぶことによって現代社会の中でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞

教育学の専門教育を通して、職業生活で評価される能力として、特に教育・保育に対する強い情熱、確かな指導力と総合的な人間力を身につけている。

(1) 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能を修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3 (3)	卒業生アンケートにおいては 99%が「よくあてはまる・あてはまる」と回答しており、満足度が高い。雇用主アンケートでは専門に関する知識技能習得について約 70%が「よくあてはまる・あてはまる」と回答している。概ね保育に必要な情報や知識技能を習得できていると言える。

カッコ内の数字は昨年度の評点

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

- (2) 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義を修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3(3)	卒業生アンケートでは、「よくあてはまる」「あてはまる」において100%が回答しており、満足度は高いが「よくあてはまる」の比率が低い。また雇用主では、67%が同様の回答をしており、そのうち50%が「あてはまる」と回答していることからおおむね修得していると判断できる。

- (3) 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能を修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
4(3)	卒業生のアンケート結果によると、子どもの成長・発達、保険、栄養、生活の知識や技能について100%の卒業生が「よくあてはまる・あてはまる」としている。また自由記述からも「基本的なことは身につけている」との記載があるため、概ね知識技術の習得ができてしていると判断する。

- (4) 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力を修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3(3)	卒業生アンケートでは「よくあてはまる」「あてはまる」と修得しているとの評価が100%であり、改善しているといえる。自由記述では、身に付けておけばよかったことに指導案やピアノの意見もあったが、修得に関して満足度は高い。一方、雇用主アンケートでは、回答数は少ないものの修得との評価は約50%にとどまってもっともばらつきのある項目であった。現場からの要望をとらえておく必要がある。

- (5) 教育・保育の実際の場合である園・学校及び施設での実習により、知識・技能と思考力・判断力・表現力の総合的に修得している。

評価 (1～4)	理由 (200字程度)
3(3)	卒業生では、よくあてはまる・あてはまるが100%とすべての学生が修得できたとしており学生の満足度は高い。 一方、雇用主では、同様に、回答数は少ないものの修得との評価は約50%にとどまってもっともばらつきのある項目であった。実習指導や各講義の充実とともに、情報共有とより密な連携が求められる。

- (6) 教育・保育におけるさまざまな資質能力を、有機的に統合・形成し、専門職としての職業生活を円滑に始めることができるように修得している。

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

評価（１～４）	理由（２００字程度）
3(3)	雇用主アンケートでは、最もばらつきのある項目であった。自由記載では保育士を目指す中で、人間、社会人としての基本的な生活習慣もしっかりと自覚して子どもたちの前に立つことを望まれている意見もある。卒業生については一定の評価を受けているものの、現場でのさらなる成長が期待されている。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評（２００字程度）
本学の専門力に関する取り組みについて、雇用主アンケートについては最もばらつきのある回答となった。しかし卒業生アンケートの結果のほとんどの項目で「よくあてはまる・あてはまる」100%となる回答であった。雇用主アンケートでは専門力を修得し、現場において活躍でき成長を期待する内容であった。卒業生の回答は非常に良好で、専門力の修得に関して満足度が高い。引き続き、本学の専門力の修得については、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法等を取り入れるなど、主体性を重んじた体験的・実践的な方法を取り入れた授業展開が必要と思われる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

（１）思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
3(3)	卒業生アンケートの評価結果は、「あてはまる」「ややあてはまる」が約 86%であり「あてはまらない」と回答したものが見受けられる。雇用主アンケートの評価結果は、66%であり「あてはまらない」という回答も見られた。現場としては社会で活躍できる汎用性のある能力を兼ね備えた人材が求められていると言える。

カッコ内の数字は昨年度の評点

（２）実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
3(3)	卒業生アンケートでは「よくあてはまる」「あてはまる」が 86%を占める。雇用主アンケートでは実行力は 66%である。組織でのリーダーシップについては経験年数からその機会が少ないと思われる。到達度は概ね 70%と判断する。

DP 到達度評価 卒業生・雇用主調査

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
3 (3)	卒業生アンケートの評価結果は、「あてはまる」「ややあてはまる」が 86%を超えている。コミュニケーションが必須の職業であり、役立っている実感があると思われる。また、雇用主アンケートの評価結果は、「あてはまる」「ややあてはまる」が 66%であった。概ね 60 パーセント以上と判断する。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やＩＣＴ機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、ＰＣスキルなどを含む。

評価（１～４）	理由（２００字程度）
2 (2)	1：よくあてはまる、2：あてはまると回答した者の割合の合計は、卒業生が約 43%、雇用主は 41%であり、ともに評価が低く汎用力においてもっとも低い。国際的動向に関心を持つ機会の少なさが理由の一つと考えられる。在学中より幅広い視点から興味関心を持ち、情報収集し、関連づけられる態度やスキルの向上を目指す必要がある。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評（２００字程度）

実行力・情報力については回答にばらつきがあり、課題の見える結果となったが、雇用主アンケート、卒業生アンケートの結果では、思考力・表現力においては「あてはまる」・「よくあてはまる」が 7 割を超えている。汎用力の育成については特に情報力において改善に努める必要がある。情報力と国際的動向への関心については ICT の積極的活用と海外研修の工夫や促進を図り、海外の学生との交流なども取り組んでいるなかで、さらに充実させ、幅広い視野を身に付けていく必要がある。